

浜松で  
就職した先輩の  
ライフスタイル

# はままっ Work Life でたらしく

浜松にはどんなシゴトがあって、先輩たちは、なぜその職業を選んだのか。一度は浜松を離れ、就職のために戻った人。浜松に来て、浜松を選んだ人。ずっと浜松での生活を選んだ人。浜松で暮らし、いま働いている先輩の仕事内容や働き方、ライフスタイルをインタビュー取材しました。

※Zutto:進学も就職もずっと地元



1 台3メートル四方を優に超える機械が何十台も並ぶ巨大な工場。山本さんはただ一人、スクレーパーと呼ばれる大きな彫刻刀のような道具を振るい、機械部品に「きさげ加工」を施していく。一度の削り取りでできるくぼみの深さは、わずか1〜2マイクロメートル（1千分の1ミリ）。地味で気の遠くなるような作業だ。

高く評価されている。

工 作機械の作動により、すべり移動する金属の接触面には摩擦熱が発生し、機械のゆがみにつながる。きさげ加工とは、この摩擦抵抗を減らすため、機械の部品に手作業で施す仕上げ工程のこと。機械での加工では得られない平面精度を実現する。その機械で製造される部品の精度を左右するだけでなく、機械の耐久性にも関わる重要な仕事だ。およそ1カ月かけてようやく1台分のきさげ加工が終わる大きな案件もある。

現 在10年目。師匠に教えてもらいながら、初めは荒削りを担当し、徐々に中引き、仕上げと任せてもらえるようになった。今では先輩の指導にもあたる。

桜井製作所が手掛ける事業は、自動車やオートバイなどの部品加工と、工作機械の製造販売。東区半田町の工場では、自動車部品メーカーなどが金属を加工する工作機械を製造している。金属の表面を削ったり、溝を掘ったり、立体的な形状をつくったりする機械から、大型生産ラインに至るまでさまざま。工作機械の設計から製造・据え付けまで一貫生産で行い、その開発力、技術力は世界中の部品メーカーから

工場を組み立てられた工作機械は、正常な稼働を確認後、一度すべての部品にばらされる。ばらした状態で輸送し、現地で再び組み立て、最終の微調整をした上で納品が完了する。納品先は国内に限らず、アメリカやアジア圏の他に、中東にもおよび。

「当時、浜松で語学を生かせる仕事を考えたとき、ホテルマンくらいは思い浮かばなかったんです。製造業の職人として、これほど海外に向くようになるなんて思ってもみなかった」と笑顔を見せた。

## ミクロン単位の手わざで 工具片手に世界を飛び回る



山本さんの「きさげ七つ道具」。このワゴン一つで広い工場を渡り歩く。きさげ加工を求められる場所に移動し、自分で仕事スペースを確保する。スクレーパーも、このワゴンも、自分でカスタマイズしている。



### 01 | きさげ加工

工作機械に取り付ける金属部品のきさげ加工  
工作機械の組み立て、システムアップ

きさげ加工職人  
山本真史さん [44]  
やまもと まさふみ



出身高校 興誠高校(現:浜松学院高校)  
勤務先 株式会社桜井製作所(東区半田町)

高校卒業後、1年間アルバイトして貯金。奨学金制度を利用し、アメリカの4年制大学で体育を専攻。帰国後、市内のホテルに就職。家族と休みが合わないことから転職。子供の頃から、コツコツとモノづくりに取り組むのが好きだったことから桜井製作所に入社。平成29年度「浜松ものづくりマイスター」に認定された。

仕事のやりがい 地味な仕事だけど、工作機械にとっては肝になる作業。だからこそ誰にも負けない、自分にしかできないという領域に達するチャンスがあります 休日は何? 家族サービスとサーフィン 月収 日給にすると、4人家族で「さわやか」の食事を2回分くらい? (笑) 高校生時代にイメージしていた将来の自分 大工になりたいと思っていました

すべり面にスクレーパーの刃を当て、柄を足の付け根に固定する。左手は押さえるように、右手は引き上げるように力を加えて、腰と膝の力を使って柄をしならせ、加工面を削り取っていく。



右/きさげ加工とは、接触面の摩擦抵抗を減らすための金属加工の一種。まず部品の接触面に顔料を塗り、実際に部品と部品を擦り合わせて面の凸凹を調べる。接触により顔料がはがれて、黒く光る凸部をスクレーパーで削り取り、また凸凹を調べては削り取りと、何度も繰り返して行うことで理想的な平面を作り出す。



左/削り取る際にできるくぼみが美しいウロコ模様になる。このくぼみ一つ一つが油だまりの役割を果たし、摩擦による焼き付きを防ぐ。